

| | | | |
|-------|---|------|------------------|
| 授業科目名 | 海外実習 B | 担当教員 | 岡元　ひかる 大野　はな恵 |
| 必修の区分 | 選択 | | |
| 単位数 | 2 単位 | | |
| 授業の方法 | 実習 | | |
| 開講年次 | 2 年 第 2 クォーター | | |
| 講義内容 | ハンブルクとベルリンを拠点に約 2 週間のドイツ滞在研修を行う。具体的には、現地のダンスフェスティバル、音楽祭、ミュージカル、文化施設の展示などを視察する。さらにアーティスト、ドラマトウルク、劇場職員、芸術祭ディレクターを含むドイツの芸術関係者たちによるワークショップやレクチャーを通じ、ドイツの芸術文化と職能について幅広く学ぶ。渡航前に、現地での学びを充実させるために、数回の事前学習授業を実施する。 | | |
| 到達目標 | (1)ドイツ特有の劇場制度、助成金システム、歴史に根ざす記憶文化とその思考をめぐる今日の状況を、渡航前の予習と現地の体験を組み合わせることで、グローバルな視点から芸術と社会の現在地を把握する。 (2)ワークショップへの参加や作品鑑賞から、古典的／実験的／商業的な芸術表現それぞれに固有の特性を、自律的価値（作品固有の美しさや構成）と社会的価値（作品が社会に与える影響）の両面から考え、言語化することができる。 (3)現地アーティストや芸術祭ディレクター、劇場関係者との対話やワークショップを通じて、芸術やコミュニティに関わる職能の多様性を知る。 (4)ドイツの各地域における文化や歴史や環境と、昨今のプロジェクトとがどのように影響し合っているのかを学ぶ。その知見をもとに、日本における芸術文化と観光が、どのように持続可能な関係を築くことができるかを考える。 | | |
| 授業計画 | 引率者：大野、岡元 履修人数：約 8 名 5 月～8 月上旬：事前学習会　約 3、4 回 8 月第 3 週～9 月初旬の間で約 2 週間：渡航＋現地滞在（前半ハンブルク／後半ベルリン） 〈主なプログラム内容〉　※今後変更する可能性があります カンパナーゲル劇場の夏季フェスティバル視察／シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭視察／エルプフィルハーモニー劇場ツアー／ミュージカル鑑賞／「8 月のダンス」フェスティバル視察／現地ドラマトウルク | | |

| | |
|----------------|--|
| | <p>によるレクチャー＋Floating University Berlin 視察／ベルリンの美術館 島視察／ベルリン祝祭劇場視察／現地アーティストによるワークショップ 他</p> <p>〈2024 年度実施する説明会・履修者選考について〉 下記に関する案内は、今後すべて学内全体向けのメールで行います。なお、 スケジュールが少し前倒しになる可能性もありますので、履修に関心のあ る人は必ずメールをチェックして下さい。</p> <p>2024 年</p> <p>2 月中旬：説明会の開催日時と資料公開＋選考用課題の〆切日を告知</p> <p>2 月末： 説明会＋選考用課題の内容告知（学内全体向けメールでも告知 します）</p> <p>3 月上旬：選考課題〆切</p> <p>3 月上旬：結果告知</p> <p>3 月上旬：航空券＋ホテル予約の手続き開始</p> <p>2025 年</p> <p>4 月以降：現地での詳細スケジュールの確定</p> |
| 事前・事後 学習 | <p>5 月～8 月上旬に、約 3、4 回にわたって事前学習会を実施します（宿題や 課題を出す可能性有り）。事前学習会は研修の成果を左右する不可欠な準 備であり、参加状況や提出物は成績評価に直結するため、必ず責任を持っ て取り組むこと。</p> <p>研修中の日報と、事後レポートを帰国後にまとめて提出してもらいます。</p> |
| テキスト | 適宜指示します |
| 参考文献 | 事前学習会の中で紹介します |
| 成績評価 の 基 準 | <p>事前学習会への出席率および提出課題など（30 点）</p> <p>研修中のプログラムへの積極的関与（30 点）</p> <p>日報と事後レポート（40 点）</p> |
| 履修上の注意 履修要件 | <p>研修期間全日程に参加できることを履修の条件とします。</p> <p>1 日の実働時間は 8 時間（休憩 1 時間を含む）を基本としますが、 海外実習の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合があります。</p> |
| 実践的教育 | 該当しない。 |

| | |
|-----|--|
| 備考欄 | |
|-----|--|